

にしのみや すまいづくりニュース

Vol. 2

2010.8.26 発行

7月9日（金）と7月30日（金）に「にしのみや あんしんのすまいづくりワークショップ※」を開催しました。だれもが安心して暮らせる安全なすまいづくり・まちづくりを目指して、日常の生活および様々な支援活動の中で感じている良い点や、困っている点、またこうすれば良くなるといったアイデアについて意見を出し合い、それぞれの立場からできることを確認することを目的に開催しました。



以下、にしのみやあんしんのすまいづくりワークショップの様子をお知らせします。

※ワークショップとは、地域に関わる諸問題を解決するために、様々な立場の参加者が共同作業を通じて、地域の課題発見・創造的な解決策や計画案の考案・それらの評価などを行なっていく活動のこと。

□ にしのみやあんしんのすまいづくりワークショップのねらい

《住宅マスタープランの目的と役割》

- ・目的：にしのみや住宅マスタープランは、社会状況や市民意識を的確に捉え、市民の住生活を支え、向上させるための基本となる計画を示すものです。また、具体的な施策を示し、行政、市民、事業者それぞれが自らのやるべきことを実践するための指針となるべきものです。
- ・役割：①文教住宅都市、環境学習都市としてのあるべき住まい像、短期及び長期的な住環境のビジョンを示します。
②西宮市の住に関する現状を紹介します。
③行政、市民、事業者のそれぞれの役割、実践すべきことを示します。

《ワークショップのねらい》

- ・現在のにしのみや住宅マスタープランの計画期間は平成14年から平成23年となっているため、昨年より見直し作業を行なっています。
- ・新しい住宅マスタープランの理念については「一人ひとりが愛着と誇りを持ち、支え合いを実感できるすまいづくり」、基本目標については「だれもが安心して暮らせる安全なすまい・まちづくり」「愛着と誇りを持ったすまい・まちづくり」「環境とともにあるすまい・まちづくり」の3つを考えています。
- ・この度のワークショップでは、特に基本目標の1つ目「だれもが安心して暮らせる安全なすまい・まちづくり」の中の小目標「地域と繋がり、楽しく子育てできる住環境づくりをすすめます」「高齢者が住みなれた地域でいきいきと暮らせる住環境づくりをすすめます」「誰もが安心して暮らせる住環境を目指して、住宅セーフティネット機能を充実させます」について、皆様

からご意見をいただきました。

《ワークショップ参加者の構成》

所 属	人数
市民（都市計画マスタープランワークショップメンバーより）	6名
高齢者支援団体	2名
障がい者支援団体	2名
子育てサークル	2名
低所得者支援団体	1名
外国人支援団体	1名

□ 第1回ワークショップ

1. ワークショップの概要

- ・日時：平成22年7月9日（金） 午前9:30～午後12:30
- ・場所：西宮市役所本庁舎4階 441会議室
- ・参加人数：14名（市民6名、支援者6名、住宅マスタープラン検討委員会委員2名）
- ・「だれもが、安心して暮らせる安全なすまい・まちづくりを目指して、すまい・暮らし・また支援活動の中で感じていることを話し合う。」を目標に、参加者のそれぞれの立場から日常生活や支援活動の中で感じる西宮市の住環境の良い点・困っている点について意見交換を行い、議論を深めました。

2. グループワークの結果

■A班（市民3名、支援者3名、住宅マスタープラン検討委員会委員1名）

高齢者のすまいづくりについて

良い点	《動きやすい環境がある》 ・高齢者が動き易い。道路もやや広い。空間も多い。住宅地の中に文化的な場所が多い。 《拠点となりうる場所がある》 ・ららぽーとのような場所で自然発生的に集える拠点ができている。
困っている点	《拠点がほしい》 ・高齢者や障がい者に限らず、誰もが集える拠点が近くに欲しい ・自然に交流したい。 ・気軽に寄れる場がないので、どこに行けばいいかわからない。 ・集まれる場所が少ない。公民館にかたよっている。 《安心して住み続けたい》 ・高齢者専用賃貸住宅の入居者が老人ホームに入っている感覚になっている。 ・高齢者専用賃貸住宅では（各住戸への訪問を管理者に止められるなど）福祉関係者が実態を把握しにくいことがある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションでは見守りが少ない。(住民間の交流が不足) ・支援が必要な状態になると他の所へ行かざるをえなくなる。(住み続けられなくなる) ・安心して自宅や自宅の近い地域で住み続けたいが、なかなか個人の意思が尊重される状況にない。(障がい者のすまいづくりについて同様の意見あり) <p>《住宅を借りにくい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしの高齢世帯を受け入れてくれる住居が少ない。入居を渋られる。
--	--

障がい者のすまいづくりについて

良い点	<p>《福祉のレベルが高い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉のレベルが高く、障がい者が住みやすい。(ソフト面) <p>《仲介業者の協力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の住宅探しに熱心な不動産屋さんがいくつかある。
困っている点	<p>《安心して住める住宅の確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の入居を拒否する大家さんもいる。 ・安心して自宅や自宅の近い地域で住み続けたいが、なかなか個人の意思が尊重される状況にない。(高齢者のすまいづくりについて同様の意見あり)

子育て世帯のすまいづくりについて

良い点	<p>《コミュニケーションがある》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを連れていくとよく声をかけられる。 ・子どもたちとマンション住民同士の交流や支援が比較的できている。 <p>《居住環境が安全》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちを歩いていてもあまり危険を感じない。 ・交通量が少なく静かで子供が安全に遊べる。 <p>《住まいの選択肢が多い》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校が住まいの近くにある。 ・不動産のバリエーションが多い。選びやすい。 <p>《世帯のバランス》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代と高齢者世代が他都市と比べるとバランスが良い。(住民の入れ替わりが一定数ある。)
困っている点	<p>《子育て環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して遊べる空地・路地が少ない。 <p>《拠点が不足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の拠点を確保すれば子育てへの協力が得られるのでは。

その他

良い点	<p>《人間関係》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の人間関係の距離感がちょうどいい。 ・人の出入りがある程度あるので、新しく住む場合に抵抗感が少ない。
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ネットワークづくりへの関心が強い。 <p>《利便性・まちなみ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通・買物などの利便性が高い。 ・静かな住環境である。 <p>《自然》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山、海が多く、緑が多い。 ・自然公園が近くにある。
困っている点	<p>《人間関係》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間のつながりが少し足りない。 <p>《自然》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑が少なく街路樹が刈り込まれすぎてマッチ棒のようになっている。 <p>《マンション管理》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンション管理がシステム化していない。水道・ガス・電気のメンテナンスに個人が対応しなければならない。 <p>《地域差》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所得面など地域の格差がある。 ・南部では、小さすぎる家に住んでいる人がいる。 <p>《歩車分離》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車歩道が分離されておらず歩行する際危険。



グループワークの様子



発表の様子

■B班（市民3名、支援者3名、住宅マスタープラン検討委員会委員1名）

高齢者のすまいづくりについて

良い点	<p>《市民活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の場が多い。
困っている点	<p>《男性高齢者の独居》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしの人（家）に声をかけるつながりがない。 ・1人シルバーの男性が行く所がない。 ・北部は地理的条件が悪い、店舗や病院が少なく不便。 <p>《災害時の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害があったときのネットワークがない。 <p>《空き家》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多い（利用ができないか）。

障がい者のすまいづくりについて

困っている点	<p>《障がい者の住宅確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住むところが限られる。 ・賃借時に契約をサポートするボランティアの仕組みづくりが必要。 ・15人程度の大きなグループホーム※では近隣の方の理解がない（つながりがない）。
--------	--

※グループホームとは、高齢者や障がい者などが、日常生活上の必要な援助やサービスを受けながら、地域社会の中で共同して居住し生活を行なう場のこと。

子育て世帯のすまいづくりについて

良い点	<p>《生活利便性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩や自転車、ベビーカーで行ける範囲で必要なものがそろう（南部中心）。 <p>《コミュニケーションの場》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに遊べる場が多く、コミュニケーションがとりやすい。 ・人が好きに集まってよいギャラリーを提供してくれる大家さんがいる（今津）。
困っている点	<p>《安全性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜になると外が暗いので危ない。 <p>《自然》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然とふれあえない。

その他

良い点	<p>《外国人の住宅確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人の1人暮らしなどの家さがしに協力してくれる業者さんがいる。 <p>《自然のある住環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人の方が西宮は静かできれい、環境が良いとよく言われる。 ・緑が多く空気がおいしい（北部）。
-----	---

<p>困っている点</p>	<p>《コミュニケーション・コミュニティの不足》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所にどのような年齢層の方が住んでいるかよくわからない（子育て家族？高齢者？）。 ・何かあった時お互いに助け合えない。 ・高齢者や障がい者、子育て世帯などあらゆる世帯が同居する多世代同居の住まいづくりが必要→共有空間をふやす、コミュニケーション・ふれあいづくり。 ・自治会に若い人が少なく高齢化しているのではないか。 ・自治会機能の一新（伝達機能を高める）。 ・老人から子供まで、無意識のうちにコミュニケーションできる場がたくさん欲しい。 ・あいさつ運動のようなふれあいがみられなくなった。 <p>《外国人の住宅確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃借時に外国人の契約をサポートするボランティアの仕組みづくりが必要。 ・市営住宅の申込書は外国語版がないので困っている。 ・行政や自治会が保証人になってくれれば良い。 <p>《道路の安全性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の勾配（歩道～車道）がきつく、雨の日に滑りやすい。 ・一方通行がすごく多くて困る（ミラーも少なく危ない）。 <p>《生活利便性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近く（徒歩圏内）に店がない（北部）。 <p>《空き家・空き地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大家さんが高齢だとメンテナンスが十分でなく、空き家になり荒れてしまうことがある。 ・空き家・空き地を利用してグループホームや地域のふれあいスポットができないか。 <p>《市民意向の行政への伝達》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政に対して市民がどのように感じているのか、現状を訴えるパイプ役となる場所が必要。
---------------	---



グループワークの様子



発表の様子

3. 住宅マスタープラン検討委員会委員による講評

■宮野委員(A班)

実際に根差したご意見を伺えたのですごく参考になりました。具体的には西宮市のいいところを認識して議論が深まっていきましたが、人間関係のバランスが良いという話を聞き、それも西宮の特徴だと感じました。

一方で、何事に対しても拠点の話に尽きると感じました。それも公民館のように予約するものではなく、フラッと立ち寄れて話ができるスペースです。それがららぽーとにおいて良い状態であるというお話も聞けました。行政側から働きかけることも必要ですが、商業施設の中など、いろんな繋がりの中で拠点ができれば良いと感じました。

■中野委員(B班)

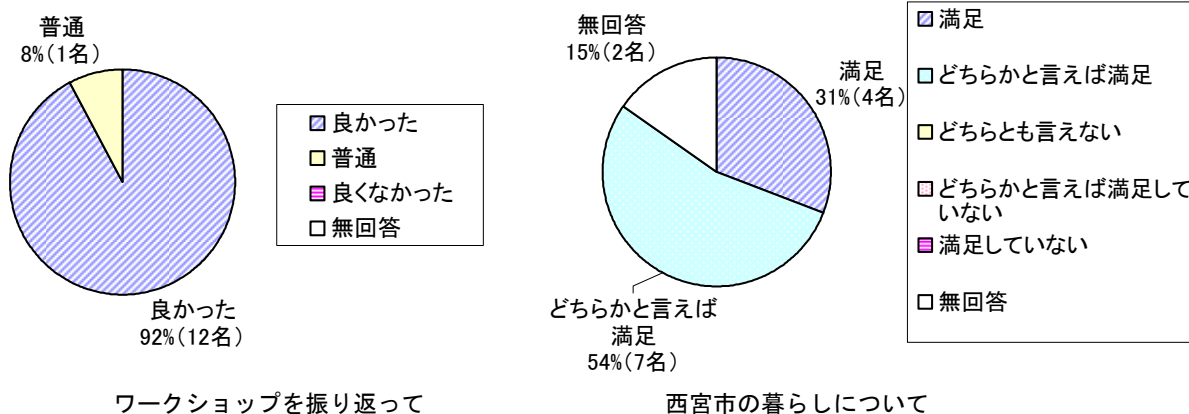
私が持っている西宮のイメージはキャラがあるのかないのかわからないまち、でも何となく居心地が良い、人間関係の距離感が良いまちです。

しかし、最近は様々な問題が出てきているという印象を受けました。具体的には、駅周辺でも道を1本入ると暗い場所が多いという意見が出て、たくさんの灯りを付けたマンションを奨励するということがあってもいいと思いました。また、一方通行の道路が多く、カーブミラーがなくて危険という意見が出ていました。マンションとしてそこにミラーなどを付けてあげると見えやすくなるのではないかと感じました。空き家を利用するという意見も出ましたが、たまたま大家さんが空き家を開放し、ギャラリーとして使用している場所が今津にあります。このような場所がたくさんできれば、事例紹介や奨励もできるのかなと思いました。

4. アンケート結果

今回のワークショップについて92%（13名中12名）の方が「良かった」と回答されました。また、西宮市での暮らしについては、31%（13名中4名）の方が「満足している」、54%（13名中7名）の方が「どちらかと言えば満足している」と回答されました。

以下、ワークショップに関する感想などの一部をご紹介します。



西宮市の暮らしに満足している・どちらかと言えば満足している理由

- ・日常生活の利便性が高い。
- ・公園やみどりが多い。
- ・南北の差、一人暮らしの高齢者、コミュニティ不足という課題がある。

本日のワークショップで自分のすまい・すまい方(生活)を振り返り、すまいの魅力や問題について、再認識したこと

- ・住宅の質も大事だが、それ以上に地域にあるソフトの方が重要だと思いました。
- ・高齢者、子育ての場が一体となった空間（施設）、地域づくりの必要性を強く感じた。
- ・私自身少し行政・地区の自治会の活動が足りないと感じました。少し前向きに努力致したいと思います。
- ・地域によって困っていることが違うことを知った。
- ・高齢者、障がい者の受け入れには、まだまだ抵抗が大きいということを再認識した。
- ・気温や人間関係など、住みやすい環境の大切な部分は整っていることを他の人と共有できた。
- ・安全安心して暮らせる家をもっと増やすべき。

その他、本日の感想など

- ・メンバーに専門性の高い人がおり、知らない世界を知った。
- ・NPOと市民が一緒に行うワークショップも良いと思いました。（様々な視点が出るので）
- ・たくさんの方と出会い、情報交換もできて、この様な勉強会をもっと増やしていただきたい。
- ・いろんな分野の方々、若い方と知り合いになれば、互いに色んな考えを学ぶことができた。
- ・意見が活発で、自由に言えたので楽しかった。勉強になることが多かった。

□ 第2回ワークショップ

1. 第2回ワークショップの概要

- ・日時：平成22年7月9日（金） 午前9:30～午後12:30
- ・場所：西宮市役所東館7階 701会議室
- ・参加人数：16名（市民6名、支援者7名、住宅マスタープラン検討委員会委員3名）
- ・「だれもが、安心して暮らせる安全なすまい・まちづくりを目指して、実現方法（解決策）、それぞれにできることを話し合う。」を目標に、第1回ワークショップの意見を受けて特に重要と思われるテーマを選び、各テーマについて実現方法（解決策）と「誰に」「何が」できるのかを話し合いました。

2. グループワークの結果

■A班（市民3名、支援者3名、住宅マスタープラン検討委員会委員1名）

テーマ①：誰もが集える拠点づくり・安心して生活できる地域コミュニティづくり

実現方法(解決策)	市民(支援者、事業者)にできること 行政ができること
<p>《人が集まる条件とは》</p> <ul style="list-style-type: none">・人がすでに集まっている。・オープンすぎず、クローズすぎない。・風通しが良い、木陰があるなど気候条件の良いところ。・危険がなく、安心できる。・楽しく、うるさすぎない。・特定の人と会える。・上記のような条件が整った「まちの縁側」 <p>《既存のものを活用する》</p> <ul style="list-style-type: none">・休耕田の有効利用（子供の遊び場として）。・公民館、公園などの既存の集いの場を見直す。・空き家の有効活用のために貸す側の財産保護が必要。・あと一歩で拠点になりそうな場所。市民から声をあげ、アイデアを人に伝える。・マンションの空き室を提供する。 <p>《地域の声を拾う必要がある(調査)》</p> <ul style="list-style-type: none">・地域別に必要となる、施設の調査。・拠点となりうる場所を選びだす。	<p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none">・行政から拠点の場所の提供者へメリットを与える。・市政ニュースで情報を募集する。・拠点として休耕田やマンションを貸した際に事故などが起こった際のケア。・アイデアを持ち込むことができる窓口を設置。 <p>《市民》</p> <ul style="list-style-type: none">・マナーを教えることや空き地の草むしりをするなど、拠点の管理や指導をする人（市民サポーター）を募集。・自らの手で管理。

テーマ②：高齢者が安心して住める住宅づくり・住宅確保に困っている方々の円滑な住宅確保

実現方法(解決策)	市民(支援者、事業者)にできること 行政ができること
<p>《貸しても良いと思える条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸し手も安心、借り手も安心できること。 ・オーナーに安心感を持ってもらうには、法人が借りる。見守りなどを行う。 ・警察の巡回などがあれば安心できる。 <p>《貸したい人をどう拾いあげる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住みたい場所で住めるようにする。便利なところで住める家を探す。 <p>《オーナーへの理解を促す》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームが安全であることを周知する。 ・地域にグループホームを増やしていけば周辺の住民の理解を得られる。 ・空き家、空きマンションをオーナーが貸しやすいシステムにする。 ・入居条件が厳しいオーナーへ理解を促す。 ・公的保証人制度の検討。 	<p>《NPO等支援団体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体が不自由な人とそうでない人の交流をもっと深めていく。 <p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーナーへの啓発（オーナー側の努力）・市政ニュースによる情報提供。 ・あんしん賃貸ネット（高齢者や障がい者などが円滑に入居できる賃貸住宅）の普及（現状ではメリットが少ない）。 <p>《市民》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すまいに関する講座などに積極的に出席する。 ・「明日はわが身」という気持ちで身近なこととして考える。 ・大人世代が子ども世代に、障がいを持っていることは特別ではないという教育をする。



グループワークの様子



発表の様子

■B班（市民3名、支援者4名、住宅マスタープラン検討委員会委員2名）

テーマ①：安心して生活できる地域コミュニティづくり（地域の助け合い）

実現方法(解決策)	市民(支援者、事業者)にできること 行政ができること
<p>《コミュニティのモデルづくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のつながり、コミュニティを小学校区ごとにつくっていくモデルづくり。 ・コミュニティガーデンをつくる。 ・多世代同居共存ビレッジ：「現代版長屋」（高齢者や障がい者、子どもや大人、誰もが集まって、助け合いながら、色んなことを学びあえる住宅や場）をつくる。 	<p>《事業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代同居共存ビレッジをつくる。 <p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の財政の5%をまちづくりに使ってはどうか。その資金でモデル事業をする。 ・多世代同居共存ビレッジの土地提供。モデルケース・小さい成功事例をつくる。
<p>《自治会・自治会相互の活動を活発にする》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の組織構成を考える（若者から高齢者まで、様々な世代から構成される自治会にする）。 ・自治会ごとのふれあい、イベントを定期的実施する。 ・インターネット上で、グループで話し合う（掲示板）。 ・回覧板を有効活用し、イベントなどの情報を共有する。 	<p>《市民》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色んな世代が楽しめるイベントを企画する。 ・自治会の活発化（イベント・話し合いの実施、構成員の多世代化）。 ・各地域のモデル事業（甲子園口の成功事例など）をもっと広める。 <p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを校区ごとに考える。モデルをつくり各地区で空き地などの有効活用を考える。 ・誰もが気軽に入れる拠点の成功事例を収集し、情報提供する。
<p>《プライバシーの意識を変える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを主張しすぎている。 	

テーマ②：円滑な住宅確保

実現方法(解決策)	市民(支援者、事業者)にできること 行政ができること
<p>《空き住宅の活用》</p> <ul style="list-style-type: none"> 古い公共住宅（空き家の多い）を活用。→テストケース（小さい成功事例）をつくる。 空き住宅を探し出す（不動産業者より地域の状況をわかっているのは自治会ではないか）。 空きスポットの情報を自治会へ提供する。 家探しは自治会と行政の連携が大事。 	<p>《市民・行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政と自治会、民生委員が協力して、空きスペースの情報を把握し、活用方法を考える。 <p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅管理者へ空き家情報確保のための情報提供の依頼を行う。 企業は転勤者の持ち家を企業の保証で賃貸している→自治会、行政の保証で賃貸してみてもどうか。 民間住宅（空き家）を市営住宅として活用する。
<p>《住宅の建て方・改修》</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅改善に対しての金銭補助を行う。住宅改善に対する必要性の啓発を行う。 バリアフリー※1ではなく、ユニバーサルデザイン※2への転換。 スケルトンインフィル住宅※3にしてライフスタイルの変化に合わせて合わせるようにする。 <p>《保証人の確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> 他人の保証人になるのは簡単なことではない。保証人になってくれる団体が必要。 	<p>《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> 市営住宅の申込書を多言語に翻訳。

※1 バリアフリーとは、高齢者や障がい者が社会参加する上での障壁（バリア）をなくす（フリー）こと。

※2 ユニバーサルデザインとは、障害の有無、年齢、性別、人種などにかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインするという積極的な考え方のこと。

※3 スケルトンインフィル住宅とは、柱・梁・床といった建物の骨格部分（スケルトン）の耐久性を高くすることで、家族構成の変化などのライフスタイルの変化に合わせて、自由に外装・設備・間取り部分（インフィル）の変更を行うことができる住宅のこと。

テーマ③：周辺の住居環境整備 ※時間の都合上「市民・行政にできること」は議論できませんでした。

実現方法(解決策)
<p>《子育て環境の改善》</p> <ul style="list-style-type: none"> 病気の子どもを預かってくれる施設が欲しい。 子育て世代が安心して働けるサポートの仕組みづくり。 <p>《小さな拠点づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな施設ではなく、小さなスポットをつくる。（子育てなど）

《交通手段》

- ・自転車生活を考える。電動自転車を活用してお年寄りの行動範囲を広げる。
- ・公共交通機関の差別化をして、市街地から遠方の市営住宅を活性化する。
- ・独居老人が安心して生活できる住環境の整備が必要。

3つのテーマを通して

- ・今日話し合ったことを実行していくために、行政にお願いする前に、住民としての意識を変えていき、行政とともに作り上げていくことが重要。



グループワークの様子



発表の様子

3. 住宅マスタープラン検討委員会委員による講評

■宮野委員(A班)

拠点づくりと住宅確保要配慮者の住宅確保の話をしました。まず、拠点づくりはみんなの目標がある程度一致していて、それに対してどうアプローチしていけば良いかという話になりました。

要配慮者の話は最初の時点でどういう問題があって、どういう理解かというところから議論をしていく中で、少し議論が白熱しました。そのため、これは明らかに市民社会の縮図かなと思ったので、みんなが議論できるテーブルに立っていくことがスタートなのかなと感じました。

■室崎委員(B班)

根底にはコミュニティの話が共通しているのではないかという話をみなさんされていました。家のつくり方も人間関係も閉じてしまっていること、それを変えていかなければいけないということをみなさんが実感しているということがよくわかりました。それをつなげていこうと思うと、拠点やいろんな意識を変えていかなければいけないということがありますが、なかなか自分たちだけでは動けない部分があります。そういった時に行政に例えば情報でつないでもらうということを持って欲しいと思っているのだと感じました。

また、意識を変えることも大事だと思います。おそらく行政にはそれを支える地盤になっていただき、その上に住民の方が意識を変えていろいろ活動をしていくと、より活発になっていくのかなと思いました。

今日参加されている方は、西宮は住み易いし良いと言っておられました。住み易いけれど、少しずつ小さなことが欠けており、そういったところを順番に埋めていけばいいなと思っておられるということでした。小さいことなら住民の方でも少しずつでも協働して進んでいけるような気がしました。また、足りないから新しい施設をつくって欲しいというより、今あるものを活用・工夫していけば良いという意見が両班で出ており、印象的でした。

■中野委員(B班)

西宮には昔から富裕層が住んでいたということで、良い意味での個人で解決できる方が多かったのですが、そうでなくなった今もその体質が残っているということを感じることができました。開かれた住宅づくりというものにしていくためには、市民の方が少しずつでも意識改革をしていかないといけないということでした。意識を変えるための方策として、このようなワークショップをたくさん行なっても良いし、必要ではないかと思いました。

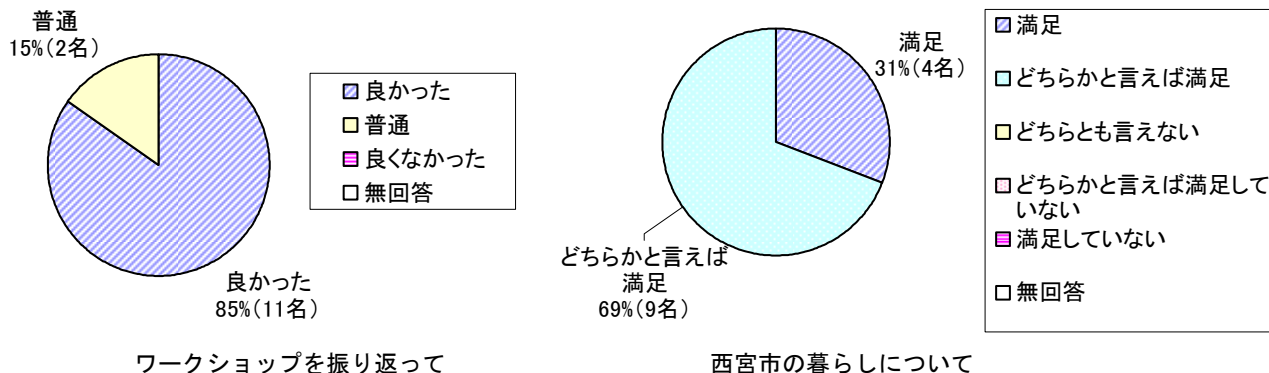
行政が考えていること、これから取り組もうとしていること、今あることがわかって、みなさんの情報が集まって、意見が言えて、人が集まってくるような、いつでも行けるような情報センターがあったらいいのかなと感じました。

最後に、私が代表を務める「西宮管理組合ネットワーク」としてやらなければいけないと思ったことは、マンションの上から下まで見ていく「マンション探索ツアー」という活動を続けていくということです。「マンション探索ツアー」をきっかけにコミュニティを広げていきたいと感じました。

4. アンケート結果

今回のワークショップについて85%（13名中11名）の方が「良かった」と回答されました。また、西宮市での暮らしについては、31%（13名中4名）の方が「満足している」、69%（13名中9名）の方が「どちらかと言えば満足している」と回答されました。

以下、ワークショップに関する感想などの一部をご紹介します。



西宮市の暮らしに満足している・どちらかと言えば満足している理由

- ・学校や芸術ホール、美術館があること。
- ・自然、アクセス、人間関係、教育、文化、それぞれが充実していること。
- ・子育て世代にとっては働きにくい面が不満。

本日のワークショップで自分のすまい・すまい方(生活)を振り返り、すまいの魅力や問題について、再認識したこと

- ・特に知的障害の方についての一般的な理解はまだまだなされていないと思いました。
- ・どこに住むかということは、自分らしい暮らし方をするための基本であることを再確認した。
- ・ひとりでは解決できないことばかりですが、多くの人が望んでいることもたくさんあるので、こういったワークショップで市民の意見を交換し、こういったコミュニティをつくるのもよいのではないか、と感じました。
- ・根底にあるのはやはりコミュニティづくりであると認識し、若い世代もそのコミュニティづくりに参加する必要があると思った。

その他、本日の感想など

- ・短時間にして、アイデアが出て、方向性も定まりよくまとまったと思います。具体的に実現する事が、参加者の願いであり、こういった貴重な時間や意見の十分な活用をお願いします。
- ・各個人の思いつきであんしんとすまいづくりワークショップが終わった感じがします。もう少し大きくグローバルな意見が必要。
- ・支援者として、高齢者・障がい者について市民に正しく理解してもらう事が難しいと再確認した。全員にわかってもらうことは目標だが「できることから」働きかけていきたい。こういった活動を通して、少しでも理解を深めてもらうようにできればと思う。

お問い合わせ

西宮市役所 都市局 都市計画部 住宅政策グループ

TEL:0798-35-3778

FAX:0798-34-6638

E-mail:jyusei@nishi.or.jp